

東静岡地区のまちづくりの考え方

1. 東静岡地区の新たなまちづくりに向けて

○まちづくりの考え方

<静岡市のまちづくり>

人口減少だけでなく、経済の停滞や地球温暖化、自然災害の頻発化・激甚化、人工知能の急速な進化など、**今、私たちを取り巻く環境は大きく変化**しています。このような中で、本市は今後 50 年先まで見据えつつ、急速に進展しているデータやデジタル技術を柔軟かつ機動的に取り入れるなど、社会経済環境の大きな変化に的確に適応できるようなまちづくりが必要であると考えています。

今までの 50 年間と、これからの 50 年間は、世の中が大きく変わることが想定されます。1つの例として、都市交通については、自動運転化の進展により、現在の交通体系は大きく変わることが想定されます。

本市は、「**大きく時代が変わる**」ことをきちんと認識し、これからの 50 年先までを視野に入れ、**未来につながるまちづくりへと再設計（リ・デザイン）**する必要があると考えています。

また、まちづくりは、市役所が単独で行うものではなく、社会全体の活動が活発になり、**様々な利益や幸せが生まれるような「共創」を促進**することが重要です。地域づくりの主役は「人」であり「社会」です。市民、地域社会、企業などと共に創り、一緒に取り組んでみようと思ってもらえるようなまちづくりを進めていきます。

<東静岡地区のまちづくり>

東静岡地区は、ＪＲと静岡鉄道が近接している場所であり、本市の南北・東西、葵・駿河・清水の３区の連携という点でも**重要な地理的位置**にあります。

ＪＲ東静岡駅周辺では、**アリーナ（計画中）**や**新県立中央図書館（令和 9 年度完成予定）**の整備が予定され、北口は「スポーツ」、南口は「文化と教育」と新しい文化の中心となる、**まちづくりの絶好の時機**を迎えています。

北口のアリーナ、南口の新県立中央図書館や既存施設のグランシップなどの**施設（ハード）**と、そこで提供される**サービス（ソフト）**が連携することで、**新しい価値**をもたらします。

この新たな価値を上手に活用し、東静岡地区に**人が集まる仕組み**を作るとともに、**利便性が高く、安心・安全で住みやすい環境づくり**を進めることが重要だと考えています。

○東静岡地区の将来像とまちづくりの重点テーマ

<東静岡地区の将来像>

「新たな文化・スポーツの拠点づくり」と「快適で住みやすい住環境づくり」

～最先端の文化・スポーツ・国際交流等による新たな交流・滞在の創出と、安心して住み続けられる住環境が共存する、新時代のまちづくり～

<東静岡地区のまちづくりの重点テーマ>

① 【文化・スポーツ】文化・スポーツの拠点としてのまちの新たな価値づくり

- ＪＲ東静岡駅北口の**アリーナ（計画中）**や、南口の**新県立中央図書館（令和 9 年度完成予定）**整備を活かしたまちづくり
- 既存のグランシップを含めた各ハード施設の連携と、施設を活用した「**人が集まる仕組みづくり**」

② 【若者・子ども】若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換

- 若者が「**住み続けたい、訪れたい**」、進学や就職で一度静岡市を離れても、**帰ってきたくなるまちづくり**
- 市外・県外の方が「**住んでみたい、訪れてみたい**」と思えるまちづくり（交流人口の創出）
- 低未利用地等を活用した、**子どもの遊び場等**の創出
- 関係機関・団体と連携し、**若者や子ども達**を対象とした魅力の創出

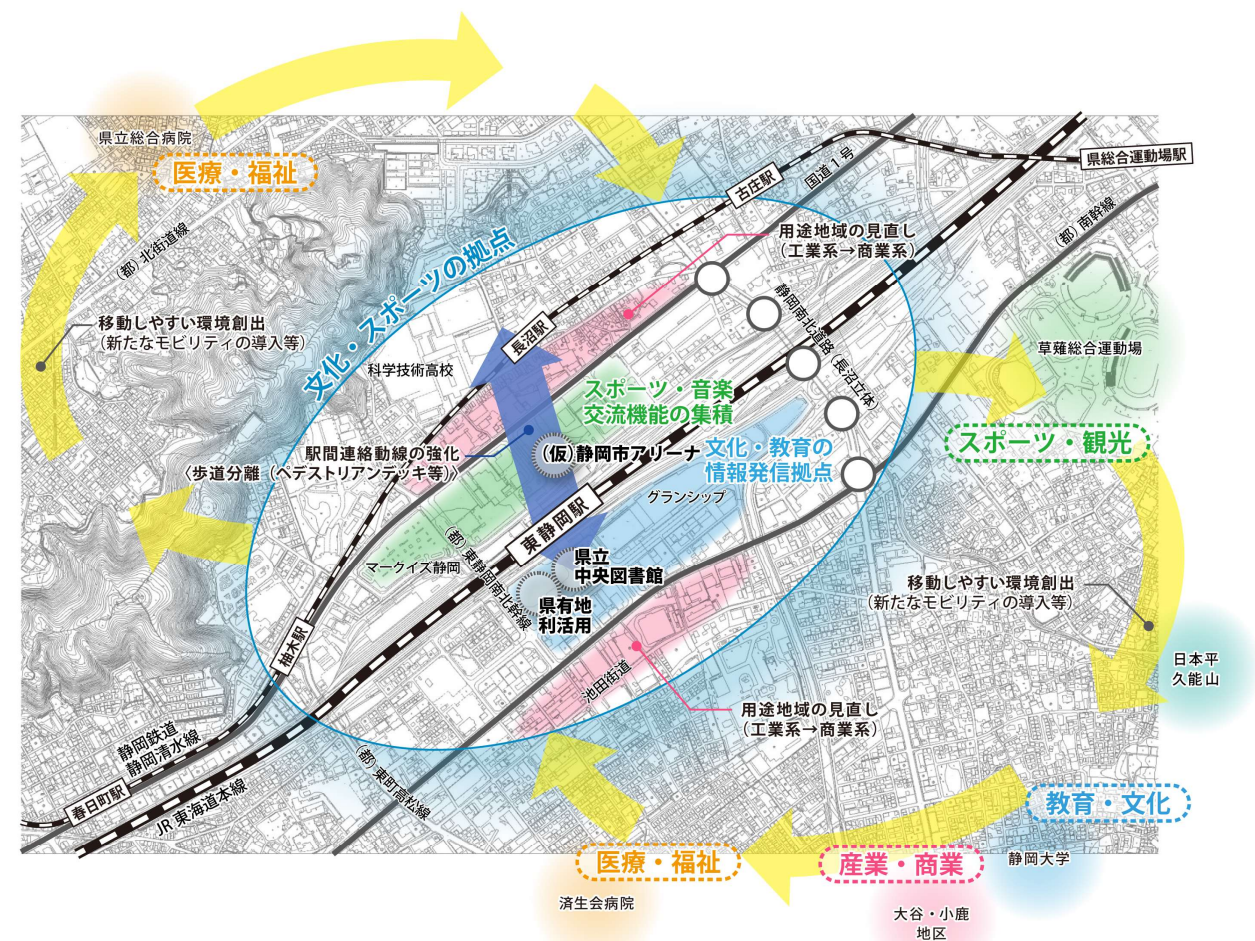
③ 【都市交通】誰もが移動しやすいまちづくり

- ＪＲ東静岡駅～静岡鉄道長沼駅間の連絡動線強化（歩行者と車の動線分離：**ペDESTリアンデッキ**の整備等）
- 公共交通や自転車、新たなモビリティの検討も含めた、**誰もが移動しやすいまちづくり**（バリアフリー、ユニバーサルデザイン、公共交通の利用促進、自転車の走行空間や駐輪スペースの確保等）
- **安全・安心で住みやすいまちづくり**（新たな交通体系を活用した、医療・福祉施設や、静岡大学等の教育・研究施設、大谷・小鹿地区の産業・商業施設との連携）

④ 【土地利用】多様な人々が訪れたくなる魅力的な空間づくり

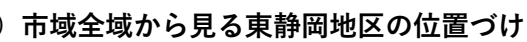
- 多様な人々が思い思いに過ごすことができる、**人中心で居心地が良く歩きたくなる空間づくり**
- 広場や公園、道路、公開空地など**公共的空間の設えや使い方の改善**
- 都市計画に定める**地域地区（用途地域や高度地区等）の見直し**（国道 1 号沿道、南幹線沿道等の東静岡地区の周辺に分布する工業系用途地域の見直し（商業系用途地域への変更））

<東静岡地区のまちづくりのイメージ図>



(1) 東静岡地区について

- ## ■東静岡地区の位置図



- ・第4次静岡市総合計画では、まちづくりの目標として『『世界に輝く静岡』の実現』を掲げ、「市民（ひと）が輝く」「都市（まち）が輝く」の2つの要素を兼ね備えたまちの形成を目指しています。
- ・東静岡地区は「草薙・東静岡副都心」に位置づけられ、スポーツや文化芸術の集積を活かし、それぞれの地域において賑わいの創出に取り組むこととしています。
- ・また東静岡副都心は、商業、業務、医療等の都市機能を持ち、コンパクトシティの核としての役割を果たすとともに、地域と一体となったまちづくりを進め、公民共創で新たな価値を想像し都市の魅力を向上することが求められています。

- ・ 静岡市都市計画マスタープランでは、まちづくりの基本理念として「人との交流がまちをつくり、人とのつながりがまちを育て、時代に合ったまちづくり」を掲げ、静岡市が目指す将来都市構造として「集約連携型都市構造」を掲げています。
- ・ 東静岡駅周辺は「都市拠点」に位置づけられ、定住人口の誘導、文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の都市機能の集積を図り、静岡・清水駅周辺とは異なる魅力とにぎわいのある都市空間の形成と、交流人口の増加を図ることとしています。
- ・ また東静岡駅周辺は、集約型都市構造の実現に向けた重点地区「東静岡副都心地区」に位置づけられ、まちづくりの方針として「快適で住みやすいまちづくりの推進」や「安心・安全のまちづくりの推進」、「利便性の高い新たなにぎわい拠点の形成」を掲げています。

Map of the Shizuoka region showing transportation infrastructure and planning zones. The map includes major roads like the Tokai Expressway (東名高速道路) and the Sagami Expressway (相模湾岸道路), as well as rail lines and stations. A red box highlights the area around the Shizuoka Station (静岡駅) and the Shizuoka Bay (駿河湾). A legend on the right explains the symbols for points (拠点), axes (軸), and zones (ゾーン). A scale bar at the bottom indicates distances up to 15km.

凡例

拠点

- 都市拠点
- 地域拠点
- 産業拠点
- 産業検討拠点
- 観光交流文化拠点

軸

- 公共交通軸 (鉄道)
- 公共交通軸 (幹線バス)
- 公共交通軸 (補完する路線)
- ⊙ 地域交通結節点
- 広域連携軸 (高規格幹線道路)
- 広域連携軸 (新幹線)
- 地域間連携軸
- 産業軸
- 観光・交流軸
- 自然環境軸

ゾーン

- 利便性の高い市街地ゾーン
- ゆとりある市街地ゾーン
- 自然調ゾーン
- 都市計画区域

3) 静岡市立地適正化計画（令和6年3月改定／静岡市）

- ・立地適正化計画では、都市計画マスタープランにおける集約連携型都市構造の実現に向けた、都市機能や居住の適正な誘導を図るため方針やその実現に向けた取組を掲げています。
- ・東静岡駅周辺地区は「都市機能誘導区域」に位置づけられ、「教育・文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の機能強化」や「商業・業務機能の強化」、「子育て環境等、周辺居住者の生活利便性の充実」を拠点形成の方向性とし、誘導施設として以下の施設を位置付けています。

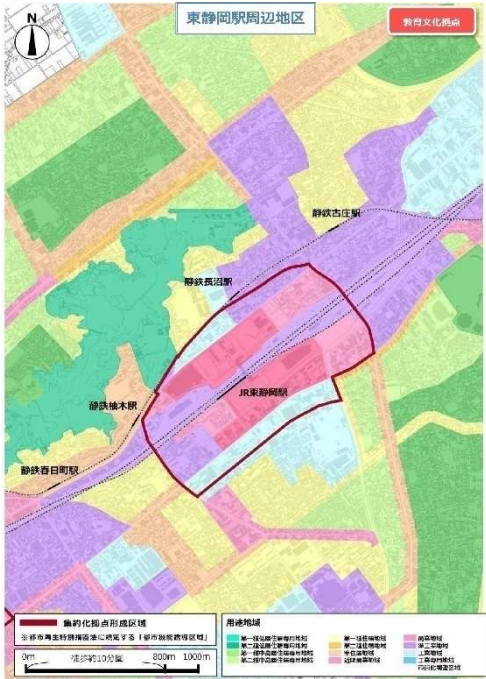
<東静岡駅周辺地区の誘導施設>

- ・子育て支援施設
- ・大学
- ・専修学校
- ・大規模ホール
- ・図書館

<東静岡駅周辺地区の立地想定施設>

- ・買回品大型専門店
- ・最寄品総合スーパー
- ・都市型産業施設
- ・宿泊施設

■東静岡駅周辺地区の都市機能誘導区域



4) “ふじのくに”の「文化力」を活かした地域づくり基本構想

（平成27年3月／東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議、静岡県）

- ・静岡県を代表する「学術・文化・芸術、スポーツ」が集積する東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域の「場の力」の最大化を図り、その玄関口となる東静岡地区への「文化力の拠点」を形成を推進するため、当地域の「場の力」を高める地域づくりや東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちづくり、駅南口県有地の整備に見込む「文化力の拠点」整備に向けた取組の考え方が示されています。

■東静岡駅周辺

のまちづくり

（出典：静岡県 HP）



(3) アリーナ及び県立中央図書館の整備計画について

1) アリーナについて

①アリーナの必要性

- ・静岡市では、人口減少・少子高齢化が課題となる中、まちの魅力向上、文化振興、地域経済の活性化など、社会への大きな波及効果が見込まれるアリーナの実現を目指しています。
- ・アリーナは、本市における既往の施設では実現できなかった、最高峰のプロスポーツや大規模コンサートなど、多彩なエンタメイベントが開催可能な施設であり、公と民の協働事業による整備・運営を想定しています。

②アリーナ予定地

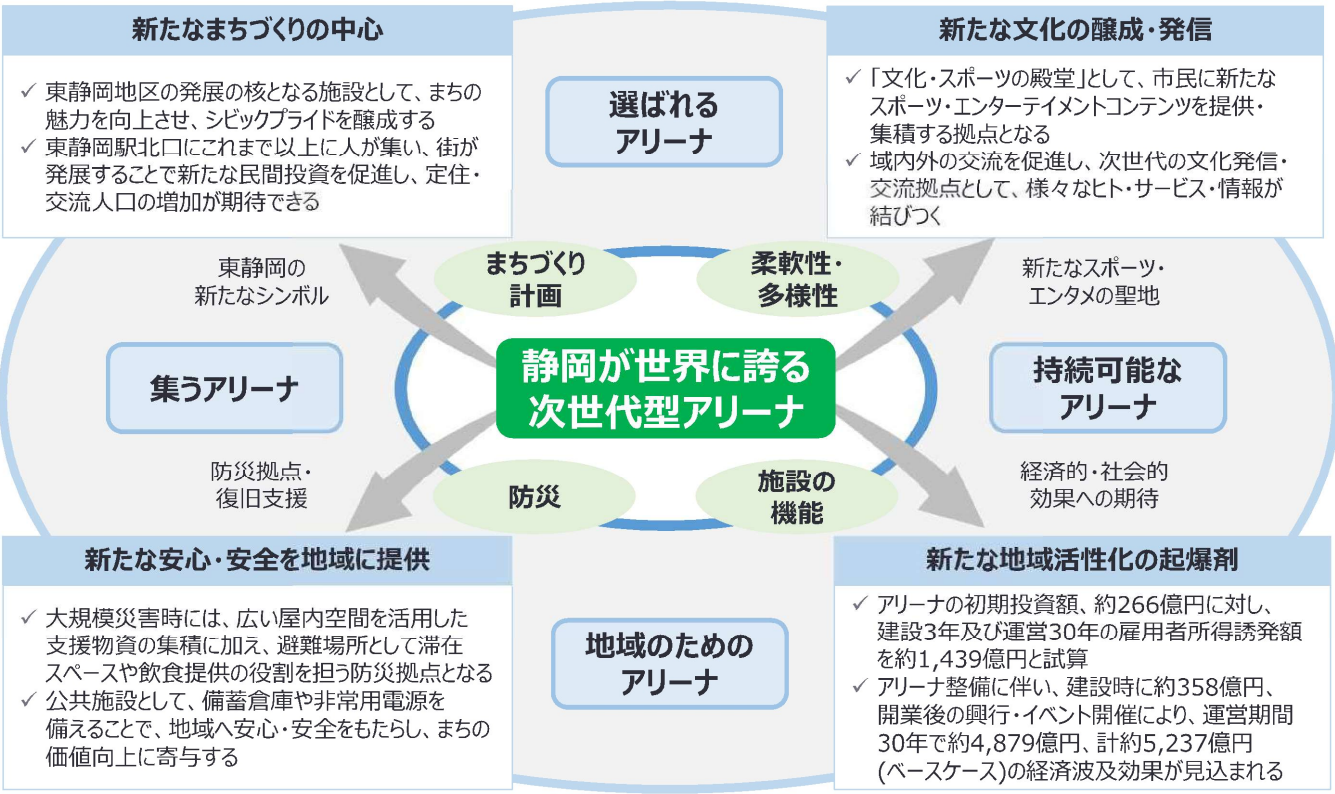
- ・JR 東静岡駅に隣接するなど、アクセス性に優れ、県内外の広域からの集客が見込まれる「JR 東静岡駅北口市有地（約 2.4ha）」をアリーナ予定地として選定しました。



③アリーナが地域に果たす役割

- ・アリーナが地域に果たす役割として、まちづくりや新たなスポーツ・文化の価値づくり、防災施設としての安心・安全の提供、及び直接的な経済効果などが期待できます。

■アリーナが地域に果たす役割



④アリーナの規模や想定施設

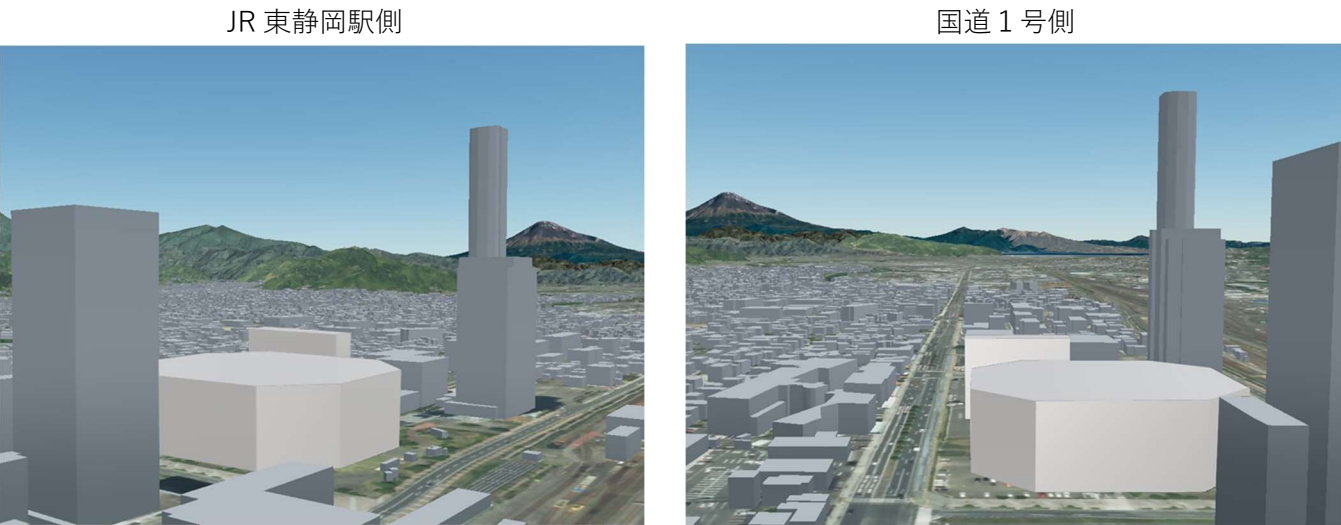
- ・プロスポーツや大規模コンサートを誘致可能な選ばれる施設として、最大収容数 10,000 人、客席数 8,000 席規模を想定しています。
- ・魅力の高いまちをつくるため、アリーナ単体でなく、ホテル等の付帯施設を含めたレイアウトが可能と想定され、複合施設としての価値向上が期待できます。

■アリーナの規模



想定施設	アリーナ延床面積	最大収容数	客席数
メインアリーナ、サブアリーナ、コンコース、VIPルーム・ラウンジ、各種諸室、備品倉庫、外構・広場、駐車場等	約25,000㎡	10,000人 (音楽興行時等)	8,000席 (固定席＋可動席)

■アリーナ配置イメージ



※国土交通省 HP(<https://plateauview.mlit.go.jp/>)を加工して作成

※現時点で想定する一案のイメージであり、配置は今後事業者との協議により決定する

Confidential - All Rights Reserved - EY Strategy and Consulting Co., Ltd. 2023

2) 県立中央図書館について

- ・県立中央図書館は、施設の老朽化や狭隘化の問題が深刻化し、その運営方法について長期にわたり懸案となっていました。平成 29 年度に東静岡駅南口県有地に全館を移転整備する方針が決定し、令和 9 年度の完成を目標に取組を推進しています。
- ・上記の方針を受けて県教育委員会では、新図書館の基本理念及び整備方針を集約し、令和 2 年までに基本構想・基本計画・整備計画をとりまとめました。
- ・令和 5 年度には基本設計が行われ、新図書館の整備イメージが公開されました。

■新図書館の外観・内観イメージ（出典：静岡県 HP）



■新図書館の基本計画（出典：静岡県 HP）

